

地域で子供を育てよう

—「新しい日常」を踏まえた青少年健全育成活動に向けて—

現在、各地域では、次代を担う子供たちの健全育成の大切さを感じながらも、実施に向けて苦慮されていることと思います。

この状況を踏まえ、今後、地域における活動の輪が様々な形で広がることを願い、「新しい日常」における取組の工夫をまとめましたので、参考としていただければ幸いです。

- 地域のみなさまに安心してご参加いただけるよう工夫した3つの活動事例とともに、他地域で実施するための専門家によるアドバイスを紹介します。
- 実施プロセスの中で、新しいつながりの輪を育み、地域ぐるみで活動を行った武蔵野市の青少年問題協議会第一地区委員会の取組を紹介します。



地域活動の工夫

集まって活動

[進行方法を工夫する]

少人数、短時間、時間帯を分けるなどの工夫で、集まって活動します。

事例
①

じゃがいもクラブ

(青少年上祖師谷地区委員会 / 世田谷区)



個別に活動

[活動成果を持ち寄る]

個人や家庭単位で活動して、その成果を持ち寄り、共有します。

事例
②

[在宅版]

みねまち親子木工教室

(青少年対策嶺町地区委員会 / 大田区)



オンラインで活動

[この機会にチャレンジ]

新たなチャレンジとして、パソコンやスマートフォンなどを活用します。

事例
③

職場体験・動画版

(桜堤中地区青少年育成委員会 / 墨田区)



アドバイザー
(リーフレット監修者)



安富 啓さん

東京都「地区委員会なんでもアドバイザー」講師
(株式会社 石塚計画デザイン事務所 代表取締役)

まちづくりコンサルタントとして、各地で地域課題の解決に向けた話し合いや地域活動の企画・実践のコーディネートを行っています。そのノウハウを生かして、地区委員会の活動へのアドバイスを行なっています。

事例

①

集まって活動

じゃがいもクラブ (令和2年(2020年)6月実施)

青少年上祖師谷地区委員会 / 世田谷区

目的

地域の農家さんと協力して、子供たちに種いもの植え付けから収穫までを体験してもらい、食の大切さや収穫の喜びを感じてもらうとともに、家族で身近な自然に触れる機会として開催

概要

- ・例年は、親子20組ほどが参加して収穫
- ・収穫の際に多くの親子が一度に集まってしまうことが課題
- ・「子供たちが自然に触れて成長する場を提供したい」という地区委員や農家さんの共通の思いがあり、進め方を工夫して実施

主な工夫

- 事前申込制による参加者の把握
- 参加者には、案内の郵送に加え、電話により開催趣旨や対策を丁寧に説明して信頼関係づくり
- 親子22組を2班に分けて、集合時間をずらして開催
- 開会挨拶、事務連絡は収穫作業中に行うことで、イベント参加時間を1時間30分から1時間未満に短縮
- 地区委員の役割分担を明確にして、例年20名程度のところを13名に減らして運営
- 収穫場所を受付で指定して参加者の間隔を確保



じゃがいも収穫の様子

アドバイザーより

- ・様々なイベントが中止となり、子供たちが地域で楽しむ機会が少なくなっている中で、親子で楽しく収穫し、自然に触れあえる機会となりました。
- ・2班制で1回あたりの参加者が少人数となり、事務連絡等を省略した分、収穫時間が最大限確保されたことで、全体としては収穫を楽しむ時間が増え、企画の内容がより充実したのではないのでしょうか。
- ・みなさんの団体でも「少人数にする」「短時間にする」「時間帯を分けて複数回開催する」という工夫を行うことで、安全確保と活動の実施を両立できる方法がないか、考えてみてはいかがでしょうか。

事例

②

個別に活動

【在宅版】みねまち親子木工教室 (令和2年(2020年)8月実施)

青少年対策嶺町地区委員会 / 大田区

目的

地域の木工さん（協力：東調布建築組合）の協力の下、木を使った工作に取り組むことで、子供たちの創造力を育むとともに、親子が協力し合って作業する機会として開催

概要

- ・例年は、参加者が一堂に集まり開催
- ・大人数が室内で長時間作業できないことが課題
- ・「親子が協力し合って作業する楽しさを提供する」ことを重視し、在宅でもできる木工教室を実施

主な工夫

- 事前申込制による参加者の把握
- 木工さんの手助けなしで在宅作業が可能な木工作品（小物入れ）の開発
- 作品の材料と在宅作業用の解説書一式を「木工キット」として配布
- 「木工キット」の受け取り期間を約1週間設け、受付の混雑を回避
- 各家庭で制作した作品の写真を集めてお披露目の展示を企画



「木工キット」の配布の様子



わかりやすい解説書

アドバイザーより

- ・工作を一緒に完成させた達成感を親子で共有できたことは、子供たちにとって夏休みの良い思い出となりました。
- ・集まらずとも木工教室が各家庭で自主的・積極的に実施されたことは、視点を変わると、地区委員会活動への理解者や今後の活動への協力者の輪が広がったと考えられます。また、各家庭で木工して終わりではなく、さらに作品写真を集めて展示するアイデアは、成功体験を地域で共有する上で大切なポイントです。
- ・みなさんの団体でも、例えば、「考える」「学ぶ」「つくる」といったテーマの活動について、大人数で集まらなくても、個人や家庭単位でできる方法がないか、考えてみてはいかがでしょうか。



完成作品（小物入れ）

目的

身近な職場を訪問し、そこで働く大人と出会い、子供たちが地域を支える人・文化・技術の魅力に気づき、地域への愛着を育む機会として開催

概要

- ・例年は、桜堤中学校の2年生が地域の職場を訪問
- ・大人数による訪問が難しい状況
- ・桜堤中学校の生徒会から「訪問できないのは寂しい」という声が寄せられ、学校、生徒会と協力して、訪問せずに地域の多様な職場を体験できるインタビューを交えた「職場体験動画」を制作

主な工夫

- メールのやりとりで12の訪問先をリストアップ
- 訪問先には分担して撮影協力依頼の連絡
- 撮影係1名、編集係1名など分担して動画を撮影し、「バネ製造」、「香り開発」、「医療用ハサミ製作」など多様な職場動画を制作(動画制作が得意なスタッフによる協力)
- 動画の撮影や編集は大がかりにせず、スマートフォンやタブレットを活用
- 給食の時間に制作動画を生徒が視聴



地域で働く方の技を撮影



仕事の紹介と中学生へのメッセージ

アドバイザー
より

- ・動画をとおして地域で働く方の声を聞いたことで、子供たちが多様な働き方やその仕事ならではの苦労や楽しさがあることを知り、自分のこれからを考える機会となりました。
- ・動画配信やインターネット会議など、オンラインの活用は、いつでも・どこでも見られる・話せる点で、活動の輪を広げるための新たなコミュニケーション方法の1つとして期待できます。また、この事例では、中学校のICT化が進んでおり、動画活用もすぐに導入できました。そして、子供たちの現状やニーズを踏まえた活動をするためにも、日頃から学校と地域の連携・協力関係を築くことが大切です。
- ・多くの団体が、オンライン活動はハードルが高いと感じていると思いますが、特に若い世代など、地域には「オンラインが得意な人・興味がある人」がいると思います。この機会に活動の選択肢や協力の輪を広げる意味でも、楽しみながらチャレンジしてみたいかがでしょうか。

コラム

みなさんの地域活動への「思い」を力に

ここでは、各地域で活動するみなさんから伺った地域活動や子供たちへの「思い」をご紹介します。地域活動の実施に向けて、この「思い」こそが、様々な工夫やアイデアを生み出す大きな力になります。



子供が主役になれる機会をつくりたい

子供が自ら考え、学び、行動する「子供が主役」となれる機会をとおして、自主性や創造性を育み、自分の意思で自分らしく行動できるようになってほしいと思います。

子供が多様な価値観に触れる機会を増やしたい

子供が異なる考え方や文化に触れる機会を増やしたいです。その経験をとおして、子供が多様な価値観を尊重して、他者を思いやることの大切さに気付いてくれると嬉しいです。



子供と地域の様々なつながりをつくりたい

子供に自分が住むまちを好きになってもらいたいです。そのために、地域が培ってきた文化、魅力的な場所・人とのつながりをつくって、地域ぐるみで子供の成長を見守っていきたいです。



「新しい日常」における地域活動の工夫とこれから ～「一地域みまもりクエスト」の活動を通じて～

青少年問題協議会第一地区委員会 / 武蔵野市

「新しい日常」における活動の課題をできる限り解消するために、感染症対策の検討・改善を積み重ねるプロセスの中で、地域・家庭・学校との協力の輪を広げて「一地域みまもりクエスト」を実施することができた「武蔵野市青少年問題協議会第一地区委員会」のみなさんにお話を伺いました。

「一地域みまもりクエスト」

(令和2年(2020年)10月実施)

目的

いざという時に頼れる人、災害時に役立つ場所など、子供たちが地域の活動や魅力を自分たちで見つけて確かめて、知ってもらうために開催

概要

- ・例年実施していたハロウィーンイベントは、仮装した子供たちが「子どもを守る家」を回ってお菓子をもらう人気イベント
- ・大人数の親子が同時にまちに集まるため、開催が厳しい状況
- ・不安の中、頑張っている学校に通っている子供たちのために「まちで遊ぶ・楽しむ機会をつくりたい」という思いから、大人数ではなく、親子単位で「子どもを守る家」「大正あいさつロード」「一時避難所」を巡り、クイズに答える「一地域みまもりクエスト」に形を変えて開催

主な工夫

- 7～8月：企画会議
 - メールやオンラインによる企画会議
 - 市の感染対策チェックリスト等を活用した徹底的な対策の検討
- 9月：関係者への協力依頼
 - 学校への企画説明と緊密な連携
 - 「子どもを守る家」へのお手紙持参による趣旨説明と協力依頼
- 10月上旬：参加者募集
 - 第一小学校で事前申込チラシ配布(当日の約束事をわかりやすく記載)
 - 申込単位を保護者と児童2名(小学校1・2年生)に限定
- 10月31日：開催
 - 居住地区ごとに集合場所(受付)と時間を複数設定して分散
 - マスク着用、多数グループでの移動や集合写真撮影の禁止、参加賞のお菓子を途中で食べない等、きめ細かい約束事の共有

アドバイザーより

- ・人気イベントの中止は、子供にとって残念なことです。形を変えて実施したことで、子供たちは楽しみながら地域の魅力を知ることができました。こうした取組が、まちへの愛着を育みます。
- ・楽しいイベントの中で、「子どもを守る家」など、自分たちを守ってくれる大切な場所を子供たちに知ってもらえる点が素晴らしいです。
- ・これまで継続してきた取組には、協力者との信頼関係、運営ノウハウの蓄積があります。みなさんの団体でも、長年の取組による信頼関係と蓄積を力に、一工夫して実施できる方法がないかを考えてみてはいかがでしょうか。

1・2年 2020年10月31日(土)14:00～15:00 開催 青少年問題協議会第一地区委員会・武一小PTA共催

【一地域みまもりクエスト】にチャレンジしよう!

みんなのまちは、たくさんひとにみまもられているよ。きんじよの「子どもを守る家」

1・2年保護者の皆様へ 2020年10月31日 今年ハロウィーンは新しいイベント：参加親子で通学路の安全確認ができるリアルな「一地域みまもりクエスト」を企画し、多くのご近所の皆様のご協力で開催できる運びとなりました。コロナウイルス感染リスクを下げるため、いくつかのルールを設けております。下記のクエスト実施概要をご覧ください。同意いただけましたら10月9日までに担任の先生にお申込みください。雨天中止ですが、参加賞を「雨天時の集合場所」に取りにいらしてください。詳細はお子様を通じて連絡しますので、必ずご確認ください。 青少年問題協議会第一地区委員会委員長

～クエスト実施概要～

申し込みは保護者と児童2名 日時は10/31(土) 午後2時～3時のうち 指定された20～30分間

保護者(大人)＋児童2名(年長の弟妹さんか、もしくはお友達もう1名でも可)までの小グループでお申し込みください。参加兄弟姉妹が2名以上の場合は別グループをお願いいたします。

密にならないよう数グループごとに集場時間をずらします。集合場所はお住いの地域により異なります。お申込みの地区で設定します。

参加費 完全無料 仮装OK

ゲームカードの指示に従って、決められた通りを歩きながらクイズを解きます。クエストエリアに掲示されたQRコードでヒントも見つかります。

クイズが解き終わったら集合場所に戻り、答え合わせをして参加賞を受け取り終了。

雨天中止のお知らせは当日正午までに青少年問題協議会ホームページでご確認ください。 → <https://musashinohiseishoukyou1.jimdofree.com>

……<キリトリ>…… 一地域みまもりクエスト申込書 締め切り10/9

参加する大人氏名 _____ 地区(1・2)(3)(4・5)(6・7)

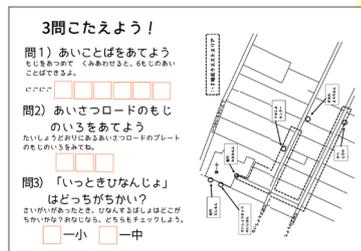
児童1 クラス() 氏名 _____ クラスまたは年齢 _____

児童2 _____ 氏名 _____

緊急TEL _____

いただいた個人情報はクエスト実施のみに使用します。終了後は破棄いたします。

チラシ兼申込用紙



「子どもを守る家」に貼られた「あいことば」ポスター QRコードにアクセスするとヒントページへ

配布されたゲームブックとクイズ



クイズに答えながら、親子単位の少人数でまちを歩く

対談

- 話し手：鬼頭さん、佐藤さん、越澤さん、金丸さん（武蔵野市青少年問題協議会第一地区委員会）
▼聞き手：安富さん、村合さん（株式会社 石塚計画デザイン事務所）、他都職員



1 地域活動の開催方法の工夫

Point ① 会議は、話す内容を事前に決めて 少人数・短時間で効率よく

- ▼活動の企画などを行う会議はどのように実施されていますか？
- 会議が必要な場合は、事前に話す内容をメールで確認し、当日は、マスク着用、検温、定期的な換気など、基本的な対策をしながら、少人数で、できる限り短時間で済ませるようにしています。
- ▼なるほど。事前に論点を明確にして、人数を絞るといいですね。

Point ② オンラインは、コミュニケーション 方法の選択肢が広がったと捉える

- ▼パソコンやスマートフォンを活用した会議などはされていますか？
- 少しずつチャレンジしています。
- ▼オンラインが苦手な人はいませんか？
- まずは、みんなで体験してみる、そこから始めています。対面の会議の代替手段ではなく、新たな方法として前向きに捉えています。

Point ③ 新しいつながりの輪を育み、 地域ぐるみで活動を進める

- ▼「一小地域みまもりクエスト」の実施にあたっては、PTA や学校と連携されたとのことですが、上手く協力できたポイントは何がありますか？
- もちろん、ご協力をいただきましたが、「協力する・される関係」というよりも、子供たちの笑顔をつくるために、お互いができることを持ち寄った感覚です。「新しい日常」では、地域の方が、少しずつ知恵と力を出し合って、自分ができる範囲で、色々な関わり方で参加できる、地域ぐるみで取り組めるような「新しいつながりの輪」を育んでいくことが大切だと感じました。

2 これからの活動で大切にしたいこと

Point ④ 互いの考えを理解し合う

- ▼「新しい日常」の活動に対する考え方は人によって様々ですね？
- はい。それは当然です。ただ、地域で子供を見守りたい気持ちは一緒です。一緒に何かを進めるためには、互いの考えなどを理解し合うことが大切だと感じています。個々人が何を必要と感じ、何が不安なのか、丁寧に共有したいと思います。

Point ⑤ 活動が止まったことを、活動を 見つめ直す時間ができたと捉える

- ▼これまでどおりに行事ができない状況に直面して、あらためて考えたことはありますか？
- 行事の中止は、単に活動が止まったと考えず、これからの活動を考える余裕ができたかと前向きに捉えました。これまでの成果や課題を振り返り、これからの活動を考える機会になっています。

Point ⑥ 今は、新たな活動を考えるチャンス

- ▼地域活動の工夫やこれからの活動を考える上でのポイントがあれば教えてください。
- 現在は大人数で集まることが難しいですが、子供たちが様々な人とつながり、成長していけるような地域づくりを進めるためにも、例えば、個人でできること、家庭単位でできること、少人数でできることなど、何かできないかを考えています。こんな時だからこそ、みんなで知恵を出せば、むしろ、新しい方法が生まれるチャンスなのではないかと感じています。

コラム

子供たちと外国人との交流～多文化共生の取組～

子供たちと外国人が交流する活動が徐々に増えてきています。外国の暮らし、風習、言葉など文化の違いをお互いに知ることは、子供にとって、色々な発見があり、楽しい機会になります。また、子供と地域のつながりの幅がさらに広がります。

ここまでご紹介した「集まって活動」「個別に活動」「オンラインで活動」など「新しい日常」における地域活動の工夫を参考に、みなさんの地域でもぜひ取り組んでみませんか。

活動例 「体験」を通じた交流

スポーツ、ゲーム、遊び、農作業など、体験を一緒にに行い、達成感を共有することで、交流が深まります。



活動例 「文化」の違いを楽しむ交流

料理教室、言葉遊び、絵本の読み聞かせなど、文化の違いを知ることは、新たな発見になります。



「やさしい日本語」 ご存じですか？

「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人などにもわかりやすい日本語のことです。日本人と外国人が地域で共に暮らし活躍していく多文化共生社会の実現には、お互いに歩み寄りながらコミュニケーションを取る「やさしい日本語」の活用が重要です。

東京都は、「やさしい日本語」を活用した情報発信に取り組んでいます。



やさしい日本語
(Web サイト)



やさしい日本語
(動画)

☆東京都では、青少年のダイバーシティ※意識を育むことや地域の課題解決のために、以下の事業を展開しています。ぜひご活用ください。

●青少年応援プロジェクト@地域

外国人や国際経験豊かな方々を通して多文化への理解を深める等、青少年のダイバーシティ意識を育むことを目的として、講演会や交流体験を実施しています。



青少年応援プロジェクト

●地区委員会なんでもアドバイザー派遣

地域の課題解決に取り組む地区委員会活動を活性化するため、必要な知識をもった専門家を派遣しています。「新しい日常」を踏まえたアドバイスも可能です。



なんでもアドバイザー派遣

※東京都は、一人ひとりが、自分らしくいきいきと働き、暮らすことができる多様性に富んだ「ダイバーシティ」都市を目指しています。(「未来の東京」戦略ビジョン)